

Newsletter

October 1, 2012

vol.30 | 学習院大学国際交流センター
Centre for International Exchange
Gakushuin University



世界17の国・地域から

学習院大学の外国人留学生

皆さんが学んでいるキャンパスには、何カ国からどれぐらいの数の外国人留学生が在籍しているかご存知でしょうか？ 普段、国際交流センターの窓口業務で、「学習院大学には、留学生はあまりいないのですか?」「英語が話せなければ、留学生と友達になれませんか?」などの質問を時々受けることがありますので、あまり知られていないのが現状でしょう。

そこで、皆さんに留学生のことを知ってもらい、彼らの存在が少しでも身近になってもらえるよう、本学における留学生についてをご紹介します。

冒頭の質問の答えですが、世界17の国や地域から、約160名*1の外国人留学生が日本人学生と一緒に学んでいます(*1内訳は、右記一覧表参照)。日本語や日本文学を学ぶため、経済学や経営学などの専門知識を高めるため、マンガやアニメを本場で学びたい、など留学の目的は様々です。外国人留学生と一言でいっても、それぞれに在籍形態があり、大きく3つ*2に分けられます(*2後述を参照)。

まずは、留学生のことを少しでも理解し、これをきっかけに留学生や国際交流に興味を持って頂ける方がいれば、国際交流センターとしても、とても嬉しいことです。

国際交流センターには、特に昼休みの時間帯などに留学生が多く集みますので、是非彼らに話しかけてみて下さい。また、国際交流センターボランティア*3に登録すると、留学生関係行事のお手伝い募集などのお知らせがG-Portで配信されますので、そういった行事の中で、留学生の友達を作ることもできます>(*3募集については後述参照)

留学生と交流をしたり、友達になったりすることは、すぐにでもできる環境はあります。あとは、一歩踏み出そうとする勇気と、様々な国のことを知ろうとする好奇心ではないでしょうか。もちろん、共通言語は日本語ですので、外国語が理解できなくても全く問題ありませんので、ご安心下さい。

■私費留学生

外国人入試(院生は一般入試)を経て入学し、一般学生と同様に学位取得を目的に、4年間(院生は2~3年間)に在籍する外国人学生のこと。現在、学部生・院生合わせて140名の私費留学生が在籍(研究生含)、留学生全体の88%以上を占めています。学費・生活費など全て私費で賄っているため、アルバイトをしている留学生も数多くいます。日本での就職を希望する学生も多く、就職活動を日本人と同様に3年生の秋頃から開始します。得意の語学や国際性を活かし、日本企業で活躍したり、母国に帰って日本に関連のある仕事をする留学生もいます。

■協定留学生

毎年4月と9月に来日する、本学の協定校からの留学生で、毎年約15名を受け入れています。半年、又は1年間に在籍をし、自分が専攻する学部や研究科に所属し、日本語や日本文化、その他専門科目を学んでいます。本学での協定留学がきっかけで、再び来日して、更に上の学問を極めたり、日本で就職したりする留学生もいます。

■国費留学生

日本政府からの奨学金を得て日本に留学している学生のこと。在籍期間は正規生、委託生によって異なります。現在は、インドネシアとロシアから、2名の国費留学生が在籍しています。

【本学に在籍する外国人留学生一覧(平成24年5月現在)】(在留資格「留学」の者)

国・地域	留学生種別	私費留学生	協定留学生	国費留学生	合計
中国		65	0	0	65
中国(香港)		3	0	0	3
中国(マカオ)		1	0	0	1
台湾		1	3	0	4
韓国		65	1	0	66
タイ		1	0	0	1
ベトナム		1	0	0	1
インドネシア		0	0	1	1
サウジアラビア		1	0	0	1
ロシア		0	0	1	1
アメリカ		0	4	0	4
フランス		0	4	0	4
アイルランド		0	1	0	1
イタリア		0	2	0	2
ハンガリー		1	0	0	1
オーストラリア		1	0	0	1
ニュージーランド		0	1	0	1
合計		140	16	2	158

協定留学生日本留学レポート

リヨン第二大学(フランス) レ・シャルロット・マリ

(平成23(2011)年9月から平成24(2012)年8月まで日本語日本文学科に在籍)

日本に着いたばかりの時に日本語をあまり話すことができませんでしたので大変でした。しかし、日本語初級の授業のおかげでだんだん日本語をうまく使うことになりました。この授業の先生たちはやさしくて説明も分かりやすいです。

私のBuddyとSA Lessonのアシスタントもとても分かりました。

その上に、私が取った授業は難しかったです。しかし面白いことを勉強することができました。先生と私の論文の研究について、話しをするときに色々なことを教えてくれました。これはもともと日本と学習院大学に留学する一つの理由でした。ほかの理由は新しい方に出会ったり、新しい文化を発見したり、新しい場所を見に行ったりすることでした。

私の研究と同じように、このたくさんやってみたかったことは成功しました。

楽しいことも悲しいこともありましたが、今年はとてもよかったです。

(原文のまま)

留学生関係行事のご紹介

国際交流センターでは、年に数回、外国人留学生を対象にした行事を催しております。普段、留学生同士でもなかなかゆっくり話をする機会がないものですが、こうした行事に参加することで、学部学科・国籍を越えた交流や情報交換なども行え、別の国の新しい友人ができたという留学生の声も多くあります。

【平成24年度行事】

月	行事内容
4月	留学生懇親会
5月	留学生バス旅行(箱根)
7月	歌舞伎鑑賞教室
7月	協定留学生フェアウェルパーティー
9月	協定留学生オリエンテーション
10月	留学生バス旅行(予定)
12月	文楽鑑賞教室(予定)
12月～2月	留学生親睦会(予定)
2月	大相撲見学(予定)



▲留学生バス旅行(箱根)で、奇木細工のコースターを作りました



▲夏季短期日本語研修での、着物の着付け体験

国際交流センターボランティア募集中!

上記留学生関係行事の、主にパーティーでは、国際交流センターボランティアの学生に、ゲームや出し物の企画・運営などで活躍いただいております。また、ボランティアの方は、毎年4月と9月に来日する協定留学生パティへの応募も可能です(募集は年2回)。外国の文化に興味がある、留学生と友達になりたい、何かの助けになりたいなど、少しでも国際交流に関心のある方は是非登録をしてみたいかがですか?(1年生の方も、今学期から登録可能です)登録は、国際交流センター窓口で随時受け付けております。

協定留学プログラム派遣学生だより

平成23(2011)年度第2期協定留学プログラムで、アメリカ・ノースカロライナ州立大学シャーロット校へ留学した法学科4年の田村郁哉さんに、寄稿いただきました。

私は2011年8月から2012年5月まで約9カ月間、学習院大学の協定留学プログラムの派遣学生としてアメリカのノースカロライナ州にある University of North Carolina at Charlotteに留学していました。

小さい頃から旅行などで海外に触れる機会が多くあり、漠然としたものではありましたが留学を目指していた私にとって学習院大学の協定留学プログラムはとて魅力的なものでした。世界中にある協定校の中でも私が希望していたアメリカの大学は募集人数が少なかったのですが、チャレンジしてみたところ幸運にも希望を叶えることができました。今回は留学の経験とその魅力についてお伝えしたいと思います。

それまで海外に長期間住んだことがなく、ましてや海外の大学で現地の学生と共に学ぶことも初めてだった私にとって留学生活の最初はわからないことも多く、難しい時期でした。しかし、私の留学していたノースカロライナ州は気候も温暖で過ごしやすいため、精神的にとて助けられたのをよく覚えています。さらに、ルームメイトを始め他国からの留学生、現地の学生と仲を深めるにつれて生活に余裕が生まれました。彼らと共に生活し、共有した時間の中

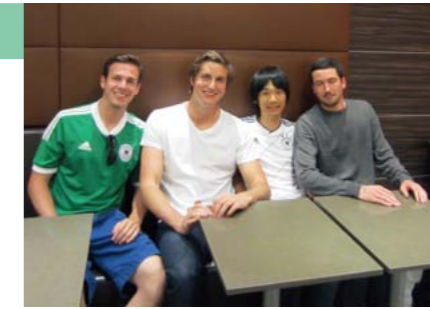


▲大学の校舎

法学科4年 田村 郁哉

では様々な新しい発見があり有意義でした。その中で私は、自分の考えを包み隠さず話す大切さを学びました。例えば、ルームメイト達とお互いの国について話をしていた時、彼らから日本の国の印象や問題点について率直な意見を聞くことができました。アメリカでは日本のことを好きと言ってくれる多くの人々に出会いましたが、そのような人は主に日本の良い点を挙げて教えてくれました。もちろんこのことは素晴らしい、日本について誇らしい気分にもなりましたが、私はルームメイト達の少し厳しくも聞こえる正直な意見を聞くことの方が今まで考えたことのなかった視点を学べ、得るものも多かったと感じています。

アメリカで受けた授業はどれもこれまで日本で受けていたものとは違い、刺激に満ち溢れていました。私の通っていた大学では、交換留学生は特に制限がなければ自由に授業を履修できるので幅広く自分の興味のある分野を学ぶことができました。まず驚いたことは、授業、受講している学生の数に関わらず学生が積極的に発言しながら授業に参加していたことです。一緒に受講した学生はほとんどがアメリカ人でしたが、アメリカ人といっても人種や宗教などが異なるため、そんな彼らから出る多様な意見を聞くことができたのは貴重な経験でした。教授は、彼らの質問や意見に丁寧に答えていく一方、論点がずれないように上手に授業を進めていたのです。そのような双方向の授業は新鮮でとても勉強になりました。時には質問自体が的外れで授業が思うように進まずもどかしく思ったこともありましたが、現地学生の自分から何かを学ぶという姿勢や授業への積極的な参加は私に大きな影響を与えてくれました。また、国際



▲現地で知り合った友人と(右から2番目が田村さん)

政治の授業では映画のワンシーンや日常生活の一場面を取り上げ、そこから国際政治の概念を考えるなど、どの授業も楽しく学べるよう工夫されていたので毎回指定され

たくさんの宿題も苦にならず授業に参加するのが楽しみでした。このように私にとってアメリカの大学で勉強し、語学だけでなく多くの人々と関わり、自分の考えを伝えることの重要性を始め様々なことを学ぶことのできた留学生活は私を人間的に大きく成長させてくれた素晴らしい経験となりました。また、世界各国からの友達とスポーツやゲームをしたことや、学生証があれば無料で利用できる映画館で映画を見るなどのなんでもない日常生活も今となっては大切な思い出です。もちろん留学生活のすべてが楽しく、理想的なものではありませんでした。しかし、それを差し引いても私は留学をしてよかったと考えています。インターネットでありとあらゆる情報が手に入ると思いがちなこの時代だからこそ、実際に海外に行き、目にすることで新たな発見が必ずあると思います。海外に関心があり、留学に少しでも興味があるみなさんにはぜひ留学に行かない理由ではなく、行く理由というものを考えて頂けたら嬉しいです。そして、留学を決意した瞬間から学習院大学の国際交流センターは大きな助けとなるでしょう。

春季オーストラリア語学研修参加者レポート

経営学科2年 長坂 友季奈

平成24(2012)年2月から3月にかけての3週間、本学では初となる春季短期語学研修を、大学間協定校でもあるオーストラリア・シドニーのニューサウスウェールズ大学(UNSW)にて実施しました。参加者総勢31名を代表して、経営学科2年の長坂友季奈さんにレポートをしていただきました。(長坂さんは、1年生の春休みに本プログラムに参加しました) 渡航先は未定ですが、今年度も同様に春季語学研修を実施する予定です。興味のある方は、是非参考にして下さい。

オーストラリアホームステイに参加して

3週間の短期留学に参加しようと決めた理由は、今の英語力を確かめてみようと思ったからです。大学生になり週に2回の英語の授業をとっていたのですが、高校の時と比較すると明らかに英語に接する時間が減っていると感じていました。それと同時に、2年後に控える就職活動を見据えたとき、勉強する時間があるこの時期に何かに取り組みなければ、将来英語を使うことができなくなるのではないかと焦りと不安を感じたからです。学年末試験が終わり、長い休みに入るのも、何かをするのなら今しかないと思い切って参加を決めました。また、行き先がオーストラリアのシドニーとありましたので、多国籍が多く集まる国で多くの人々に会うことができ、いろいろな文化や考え方に接する事ができるのではないかと考えたからです。さらに、現地の大学に通い勉強することで日



▲大学内を案内してくれた方と、校車前にて(左から3番目が長坂さん)

本では得ることのできないことを経験できるのではないかと考えました。私にとって今回が初めてのホームステイでしたので、出発の日が近づくにつれて不安が徐々に募りました。大学の授業についていけるだろうか、ホームステイ先の家族とは上手くコミュニケーションをとれるだろうか、知らない土地で危険に遭遇したらどうしようなど、本当にたくさんの不安がありました。しかし、数回にわたり行われた事前研修でオーストラリアの風土に関することや、防犯など注意すべきことを教えていただき、グループワークもありましたので、一つずつ不安は解消されていきました。また、出発の前に一緒に参加する仲間と知り合うことができたことは、大変心強く思われました。

実際にオーストラリアで過ごしてみて、正直、自分の言いたいことが言えない状況に何回も陥りました。それは大学の授業でもステイ先でも同じで、先生の言っていることはわかるけれど、なんと返して良いのかが分からず、スムーズに言葉がでなかったことがとてももどかしく悔しかったのです。それでもなんとか自分の思っていることを伝えようと必死でした。悔しい想いもしましたが、大学の授業を受けたことやステイ先の家族と話したこと、たくさんの人と話す機会を得たことで多くの刺激をもらいました。海外のプレゼンの仕方やエッセイの書き方を学べたことは日本でもたくさん役立つことがあり今まで気づけなかった面を発見することができ、また、

▼3週間お世話になった担任のケイト先生と一緒に



大学内は様々な国の生徒が多く、授業に対しても貪欲で、日本では受けたことがない新鮮な授業体験ができたと感じます。ステイ先ではマザーとファザーが温かく迎えてくださり、2人の出身地であるマルタ島の郷土料理もいただくことができ、充実した毎日でした。その家には中国からの留学生が2人ステイしていたので、オーストラリアのことだけでなく中国のこともたくさん聞くことができ、中国語も勉強することができました。また、プレゼンでリサイクルのことを調べていたので、環境のことについて教えていただき、環境に対する姿勢などたくさんのお話をきくことができ、あらためて文化の違いを感じ良い経験となりました。

帰国して思ったことは、もっと英語がしゃべれるようになりたいという気持ちです。今回実際に行ってみたことで悔しい想いをしたからこそ、できた想いです。また、もっといろいろな人としゃべりたい、もっと自由にコミュニケーションを取りたいという想いもでてきて、そのためのツールとして英語があることをすごく意識しはじめました。3週間という短い期間でしたが、実際に行って英語を使ってみたことで、自分に足りないところや改めて英語を勉強したいという想いなど、たくさんの気づくことがあり私にとって大きな収穫となりました。気づくことができたという面で行く前とは少し成長できたのではないかと感じています。ただ、気づいたことで終わりにはできません。これからの自分の成長や想いを達成するために、長期留学に挑戦したいという気持ちもでてきました。長期留学ではもっと大きな困難にぶつかるかもしれないけれど、その困難を乗り越えたとき、それ以上の新たな収穫があるのではないと思うからです。

最後に、このような機会を与えて頂いた国際交流センターの方々や、シドニーで歓迎BBQを催してくださったOB・OGの方々に感謝いたします。

平成25(2013)年度協定留学プログラム(第2期) 派遣学生募集中!

現在、平成25(2013)年度第2期協定留学プログラム(留学期間:平成25(2013)年10月～翌年9月/派遣先:中国、韓国、アメリカ、ヨーロッパ等)の出願を受け付けています(募集要項は掲示・G-Port・当センターホームページなどで公示しています)。

なお当センターにて、本プログラムにより派遣した先輩方の留学体験記を閲覧できますので、応募にあたってはそちらも参考にしてみてください。

【平成24(2012)年度第2期協定留学プログラムによる派遣学生】

(留学期間:平成24(2012)年10月～翌年9月)

派遣先大学	派遣学生
復旦大学(中国)	経済学科3年 岩名地 春美
ノースカロライナ州立大学シャーロット校(アメリカ)	法学科3年 露木 秀典
ノースカロライナ州立大学シャーロット校(アメリカ)	英語英米文化学科2年 吉川 史郎
オックスフォード・ブルックス大学(イギリス)	英語英米文化学科3年 加藤 駿
エディンバラ大学(イギリス)	法学科3年 菅野 真珠美
エディンバラ大学(イギリス)	英語英米文化学科3年 牛島 唯
バイロイト大学(ドイツ)	ドイツ語圏文化学科3年 吉川 侑里
バイロイト大学(ドイツ)	ドイツ語圏文化学科3年 関口 真穂
マンハイム大学(ドイツ)	ドイツ語圏文化学科2年 小倉 裕
マンハイム大学(ドイツ)	ドイツ語圏文化学科3年 古川 りえ
リヨン第二大学(フランス)	フランス語圏文化学科2年 合田 真理恵
リヨン第二大学(フランス)	フランス語圏文化学科3年 粕谷 友紀
パリ第十大学(フランス)	哲学科3年 宮治 明子
パリ第十大学(フランス)	フランス語圏文化学科3年 古市 悠太
ボローニャ大学(イタリア)	経済学科2年 奥澤 葉月
アイスランド大学(アイスランド)	英語英米文化学科4年 半澤 ゆかり
アイスランド大学(アイスランド)	政治学研究科博士前期課程2年 小池 望

平成24(2012)年度第2期派遣学生からのメッセージ

(9月よりアイスランド大学に留学)

私は英語の教員を目指していますが、大学2年生の冬に自分の実力の低さに気付き愕然としました。残り2年間で何が出来るのだろうと考えたときに、海外の大学で語学力を磨きながら専門知識を学べ、かつ経済的な負担が軽い協定留学プログラムへの応募を決意しました。アイスランド大学への出願や滞在許可の手続きは情報量が少なくとても大変でした。しかし国際交流センターの方々困った時には親身に対応してくださり、無事手続きを終えることが出来ました。今はアイスランド大学での授業が本当に楽しみです。もし留学に少しでも興味があるならば、まずは行動を起こすことが大事だと思います。短い学生生活、挑戦するなら今しかありません。

※原稿は平成24年8月に作成 (文学部英語英米文化学科4年 半澤 ゆかり)



海外協定校からの留学生のご紹介

平成24(2012)年度9月より、学習院大学での留学を開始した、協定校からの留学生をご紹介します。

協定校	氏名	学習院での所属	留学期間
大学間協定			
北京外国語大学(中国)	冀 翔	政治学科	1年間
慶北大学校(韓国)	趙在洪	日本語日本文学科	1年間
オックスフォード・ブルックス大学(イギリス)	HALSEY Sian Eleanor	日本語日本文学科	1年間
オックスフォード・ブルックス大学(イギリス)	平原 アマリア さとり	日本語日本文学科	1年間
オックスフォード・ブルックス大学(イギリス)	TAKASAKI-GOUT Timothy James Hiro	日本語日本文学科	1年間
リヨン第二大学(フランス)	LEBOSSE Maxim Guillaume	英語英米文化学科	1年間
リヨン第二大学(フランス)	池田 明日香	人文科学研究科	1年間
国立ナポリ東洋大学(イタリア)	CASABURI Amedeo	史学科	1年間
ボローニャ大学(イタリア)	GEMMATI Pierpaolo	日本語日本文学科	半年間
学部間協定			
パリ第七大学(フランス)	BAULEZ Ferdinand	日本語日本文学科	1年間

海外留学のための奨学金について

本学では、留学に伴う経済的負担を軽減し、少しでも多くの学生に留学を経験してもらうことを目的として、「学習院大学海外留学奨学金・奨励金」という制度を設けています。

●学習院大学海外留学奨学金

応募条件:「留学願」が承認されている者又は承認されることが見込まれる者

奨学金額:1名につき50万円以内(給付)

募集人数:年20名程度(平成24年度採用実績22名)

募集時期:年2回(12・6月)

●学習院大学海外留学奨励金

給付条件:「海外留学奨学金」受給者のうち、特に優秀な者

奨励金額:1名につき10万円以内(給付)

採用人数:年10名程度(平成24年度採用実績7名)

平成25年度に留学を開始する方を対象とした第一回目の募集(上記「募集時期」12月の回)については、募集要項を10月に掲示・G-Port・当センターホームページなどで公示する予定です(平成24年度の募集は終了しました)。

来年5月頃には、第二回目(上記「募集時期」6月の回)の募集を開始する予定です。

なお、本奨学金を利用して留学をされた先輩方の留学体験記(協定留学・協定外留学)が、当センターにて閲覧できます。

このほか、留学関係の奨学金等については、以下のようなものがあります。

●学習院大学海外短期語学研修奨学金

募集条件:夏季休業中、3週間以上の語学研修に参加した者

金額:10万円以内

募集人数:100名程度(平成23年度採用実績:120名)

募集締切:10月5日(金)

選考方法:応募書類(語学研修の修了証、研修報告書など)を元に書類審査

●学習院大学海外ボランティア活動奨励金(平成24年度の募集は終了しました)

募集条件:夏季休業中、海外においてNGO、NPO等の団体でボランティア活動を行なった者

金額:10万円以内

募集人数:10名程度(平成23年度採用実績:10名)

募集時期:9月24日～9月28日(平成24年度)

●大学院学生国外研究発表援助

募集条件:国外における研究集会で、発表を行なう大学院生(共同研究を含む)

金額:10万円以内

募集人数:20名程度(平成23年度採用実績:11名)

募集時期:10月上旬予定

※募集内容や応募条件等詳細については、当センターホームページなどで確認して下さい。

Newsletter vol.30

発行日/2012年10月1日

編集・発行/学習院大学国際交流センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 TEL.03-5992-1024 FAX.03-5992-1025

http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/ (「学習院 CIE」などで検索してもヒットします)

※表紙の写真/禹 吳穎(人文科学研究科日本語日本文学専攻博士後期課程2年)

※今号掲載の学生の所属年次などは、平成24年度当時のものです。

平成24年度国際交流センター運営委員

所 長 水野 謙(法学部)

運営委員 森田 朗(法学部)

// 熊井 信弘(経済学部)

// 村野 良子(文学部)

// 馬淵 一誠(理学部)

// 高橋 利宏(副学長)

// 桂木 隆夫(学生センター所長)

// 宮澤 文玄(国際交流センター課長)